

水稲・大豆の生育と管理

令和2年6月号

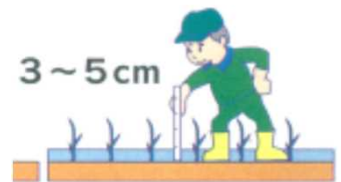
宇佐市農政課

大分県北部振興局集落営農・農地活用第一班

水稲の栽培管理～初期除草剤について～

◎除草剤を効かせるポイント

- ① 漏水防止対策！
→畦塗りや穴をふさぐ等対策を行ってください。
- ② ほ場を均平にする！
→代かきを丁寧にしっかり行いましょう。湛水の深さが同じになるように均平にすることで、水田の水もちも良くなります。
- ③ 除草剤処理後3～5日間は湛水深3～5cmに！
(ジャンボ剤は5～6cm)
→水の出入りを止め湛水状態で均一に散布してください。
- ④ 散布後7日間はかけ流しをしない！
→散布後は少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
- ⑤ 天気予報をみて散布しましょう！
→処理直後に大雨が降ると、田面水があふれて効果不足になる恐れがあります。



◎除草剤の使用時期の目安

種類	使用適期
初期剤	移植直後～5日位（ノビエの発生初期～1葉期頃まで）
初期一発剤	移植直後～10日後位（ノビエ1.5～2葉期頃まで）
初・中期一発剤	移植直後又は活着後～移植後20日後位（ノビエ2.5葉期頃まで） 適期は移植後10日後位（ノビエ2葉期頃）
中・後期剤	移植後20～25日位（ノビエ2.5～3.5葉期頃まで） ※体系処理で使う

※水田内で最も生育の進んだノビエの葉齢を目安で見てください。

ロータリー等を装着したトラクターが一定の条件下で公道走行できるようになりました！

☆灯火器類・車両幅・安定性・免許について、一定の条件があります。

☆必ず農林水産省のHP（右のQRコードを読み込むと見れます）で公道走行が可能かを確認してください。



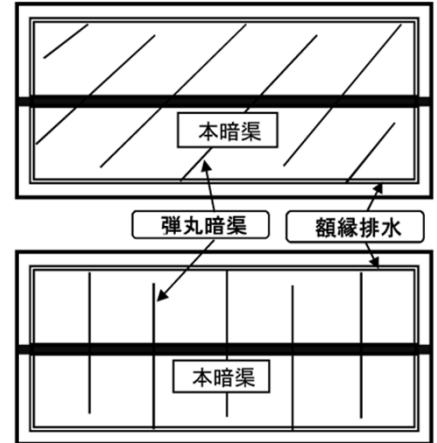
裏面へ

大豆の栽培管理～播種前の準備～

◎排水対策をしましょう！

大豆は出芽期から生育初期にかけて湿害に非常に弱く、梅雨期の降水量の増加は単収の減少に繋がります。排水対策のポイントは本暗渠・額縁明渠・弾丸暗渠の3つです。

排水対策の施工例



◎適切な土作いを！

土壌の酸性化は単収低下の原因になります。土壌診断で土壌の状態を確認し、適正量の資材を投入することで、過剰投資を防ぐことができます。

適切なpHについて

大豆に最適なpHは、pH6.0～6.5程度です。土壌診断により圃場のpHを確認し、石灰質資材でpHを調整しましょう。

粘質～壤質土壌の各資材施用量（kg）（目標：pH 6.2）

石灰資材	土壌のpH		
	< 4.5	< 5.0	< 5.5
苦土石灰	240	140	70

* 土壌診断により石灰質資材の投入量が300kg/10a以上になった場合は、数年に分けて施用。

◎肥料について

大豆の施肥は、出芽後の初期生育を確保し、根粒菌が活動を始めるまでのスターターとして使用します。やせた圃場や収量低下が予想させる連作田では必ず施肥しましょう。

大豆の施肥基準

圃場の種類	成分量（kg/10a）		
	窒素	リン酸	カリ
転換初年度・肥沃田	0	10	10
連作田・やせ地	3	10	10

◎播種直前耕起の徹底！

耕起後に降雨があると土が水を含み、圃場が乾きにくく播種適期を逃します。播種直前に耕起を行うことで、速やかに播種作業に入ることができます。適期播種のために、播種直前に耕起しましょう。

農研機構 “診断に基づく大豆栽培改善技術 導入支援マニュアル” の紹介

☆低収量になっている原因や収量が不安定な要因をスマートフォンやパソコンで簡単に診断できます。

☆興味を持たれた方は右のQRコードを読み込むか「大豆 楽々診断ナビゲーション」で検索し、実際に診断をしてみてください。

